



ボランティアニュース

216号 2021年11月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

思いつくままに

外来看護科長 牛田多恵子

わたしは歩くのが早い。よし頑張るぞ、と思うと自然とぐんぐん歩いている。ゆっくり歩いていると、やる気がなくなる気がするのだ。今年度4月からは外来所属となり、行動範囲が広くなり、さらに歩く速度が早くなったかもしれない。

先日、地下フロアを歩いていた時のこと。ベビーカーに乗ったこどもが私に腕を差し出してきたことに気づいた。しかし、いつもより焦っていた私は、立ち止まることができず、通り過ぎてしまった。しばらくして、一階フロアを歩いていると、先程のこどもの姿があった。「さっきは通り過ぎてしまってごめんなさい」とご家族に伝えると「誰にでもするんですよ」と、にこにことお母様が答えてくださった。「何を見せてくれるの？」と声をかけると、腕に付けた折り紙の時計を見せてくれた。ボランティアさんが作ってくださったものだ。その時のこどもの嬉しそうな誇らしそうな笑顔。この笑顔を見て嬉しくなり、癒されたのはわたしの方だと思った。

笑顔について、最近しみじみ思うことがある。人は簡単に笑顔になれない、ということである。その事を実感したのは、孫ができてからだ。新型コロナウイルスの影響もあり、孫には簡単に会うことができない。赤ちゃんの時はこちらの笑顔に反応して笑ってくれた。しかし立つ事ができる頃になると、たまに会う孫は、優しく話しかけても、面白い顔してもすぐには笑顔を見せてくれない。大きなまっすぐな瞳で、じっとこちらを見つめ「簡単には笑わないわよ」と言っているようだ。しばらく時間が経つと、慣れてきて漸く笑顔を見せてくれる。そして孫の笑顔に私は幸せいっぱいになる。

こども医療センターの館内は、明るくて色とりどりの季節の飾りがされている。春には本物の桜の木が飾られ驚いた。柔らかく布で作られた花や魚や海の生き物があちこち泳いでいる姿も見る事ができる。クリスマスツリーにはたくさんのプレゼントが飾ってあったりする。時にはピアノからワクワクする音楽が聞こえてくる。ボランティアさんの活動によるものだ。季節を感じてもらい、少しでも楽しい気分になってほしいという気持ちが伝わる。そして玄関を入ると事務員や、ボランティアの方々が、笑顔で迎え、困っていると声を掛けている。ご家族が「ありがとうございます」と言ったとしたら、その時その方はきっと笑顔でいるだろう。



私も、コロナウイルスによる影響で、しばらく活動をお休みされていたボランティアさんに、久しぶりにお会いした時は、頼りになる懐かしい知人に会えたような温かい気持ちになり思わず笑顔になった。

当院のこども向け基本理念『わたしたちのちかい あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませす』は正面玄関にしっかりと掲げてある。これを叶える為には、まず私たち職員が笑顔でいなければならないと思う。忙しくてもちょっぴり元気がない時も、簡単に笑顔になれない時も、こども達の為に笑顔でいたいと心から思う。そして、少しゆっくり外来を歩いてみようと思う。

「ぼぼんた zoom おはなし会」

「ぼぼんた」グループリーダー 高橋康子

病棟や施設のプレイルームや病室で絵本を読んだり、手遊びやわらべうたをして入院している子どもたちと触れ合う。そんな日常が2020年2月以来ぱったり無くなり、次第に活動のない水曜日が新たな日常になり、行かないことで医療センターへの関心もだんだん薄れてきてしまいました。2021年度渡辺千春さんと私でぼぼんたのリーダーになり、久しぶりにセンターに赴き、ボランティアコーディネーターの加藤さん、オレンジクラブ代表の三木さん、図書司書の渡辺さんから入院している子どもたちの状況を、そして他のボランティアグループがかなり活動を始めていることを伺い、驚くとともに自分の無関心さをとても恥ずかしく思いました。

そこで、まず状況を把握し、それから頻繁にぼぼんた Zoom ミーティングを開き、私たちの知ったこと感じたことを他のメンバーとも共有し、どうしたら病棟の子どもたちにぼぼんたの“おはなし会”を届けられるか、その方法を模索し始めました。直接触れ合えないのですからオンラインで病棟とつながるか、おはなし会の動画を撮影し、何らかの方法で届けるしかないのです。慣れない機器を相手に四苦八苦しながら絵本の読み聞かせなどをそれぞれのスマホやタブレットで自撮りする練習も始めました。そんな時にメンバーの古賀さんが、“星つむぎの村”の活動でされた入院中のお子さんへのオンラインでの絵本の読み聞かせが、そのお子さんにとって大きな喜びであったことを話してくれました。それはまさに私たちが病棟で体験し、感じていたことでした。この時みんなのやる気に一気に火が付いたのを感じました。

翌週から二人一組の“Zoom おはなし会”の練習が始まりました。いつもは体全体で表現している手遊びも小さな画面の中に納まるように、絵本が光らずに安定して見られるように、、、工夫しなければならぬことはたくさんあり、練習に熱が入ります。

迎えた Zoom おはなし会の本番初日、病棟の病室内の様子が届いた時、1年半以上離れていた病棟での活動が一気によみがえり、ジーンとなりました。ぼぼんたによる絵本や紙芝居・手遊びを病棟のお子さんとママにとっても楽しんで貰えました。画面を通しておはなし会がちゃんと届けられるだろうか？ 心配は杞憂でした。

それから毎週水曜日の午後、私たちは当番を決め、おはなし会をお届けしています。当たり前のことですが、直前にならないければどんなお子さんが参加されるのかわかりませんし、どんな状況でも対応しなければならぬ臨機応変さが必要です。でも、それは私たちがずっとやってきたこ

とでした。始まる前は画面映りを気にして緊張するのですが、一旦始まるとお子さんたちの可愛さに、皆夢中で画面の向こうに話しかけています。お子さんたちの笑顔を見ると、私たちもとても幸せな気分を満たされます。

Zoomの機能を活かして一度に複数の病棟、病室を対象におはなし会をというご希望もあります。しかし、一人ひとりとしっかりつながるため、今のところは原則として一度にお一人（一家族）ずつで対応しています。他にも待ってくださっている病棟・施設があると聞いていますので、もっと大勢にお届けできるようにするのが今の課題です。

私たちのおはなし会で皆さんが少しでも笑顔になれたらうれしいです。一日も早く病棟での活動の再開を願いますが、それまでは工夫を重ねて病棟の外からおはなし会を届けていきたいと思っています。



(写真は、記事とは別日のものです。)

「Zoomでろうそく ぱっ！」

ぼぼんた 武藤希代子

入院中の子どもたちにZoomでおはなし会を届けることになった。コロナの影響でぼぼんたの活動が休止になってから1年半以上。すでに病院内ではぼぼんたのことを知らない患者さんも多いという。そんな子どもたちにパソコンの画面越しに絵本の喜びが伝わるだろうか？ 疑問を残したまま本番を迎えた。

9月15日、1回目は、ある病棟の1歳の男の子。ベッドの上でママに抱っこされてご対面。ゆっくり“ろうそく ぱっ！”と指のろうそくを点けて、絵本「くだもの」を読み始めた。“さあ、どうぞ”のところで、保育士さんが画面のくだものを取ってその子の口に持って行ってくださる。すると、男の子は口をモグモグさせて食べる真似をしてくれた！ 嬉しかった。その後もわらべうたや絵本をととても自然に楽しんでくれて、15分足らずのおはなし会は終わった。

2回目はお子さんがお昼寝になってしまったため、ママとわらべうたを楽しんだ。私たちの歌声に合わせてママも歌ってくださり、わらべうたで遊びながらお子さんの体を触ることの大切さをお伝えした。終わってから、そのお母さまから「今はコロナで児童館にも行けないため、わらべうたや手遊びを教えていただいて良かった。良い気分転換になった」と嬉しい感想をい

ただいた。入院の閉そく感のなかで、少しでも外の空気を感じて緊張をほぐすことができたのなら幸いだ。そして、9月22日、1回目は別の1歳の男の子。少し緊張の面持ちで私たちを見つめている。でも、指のそうそくを点けて、“やまからころころ、やーまいも”とわらべうたを始めると、顔の表情が明らかに変わった。そして、絵本を読んで、手袋人形で“ちゅときゅ”をやってみせると、うれしそうな顔が見えた。おはなし会が終わった直後、保育士さんから「わらべうたの時お子さんの足がピョコンピョコンと動き、お母さんが思わず『足でリズムをとってるね!』と言われた」と聞いた。私たちは涙が出そうになるくらい感動した。聞けば、そのお子さんは先週体調がずっとすぐれず、笑わなくなっていたそう。その子がおはなし会の間はおしゃぶりを吸うのを忘れて見ている時もあったと言う。こちらの思いが画面を通してでも伝わるのだ。

Zoom おはなし会と言われて、初めは絵本を読むことだけにとらわれていた私だったが、今回の体験を通して患者さんとそのご家族の心に寄り添い繋がりあうことがどんなに大切かを改めて知らされた。これからもお一人おひとりとの出会いを大切に続けていきたい。

プラネタリウム*重心施設と5西病棟で22回上映



5西病棟の看護科長からの依頼で、星つむぎの村のプラネタリウムの器材をお借りして開催。53名のお子さんやご家族、職員が夜空の星を楽しんだ。途中、アニーも参上！星座もありました。写真下は、5西での上映場所

ボランティアコーディネーター



ぽぽんた通信④

キクちゃん

訓盲学院への坂道を、久しぶりに相方と一緒に登った。相方の病欠が思いがけず短くて、とても嬉しい。今日の私の担当は中高グループ(中学生・高校生)。部屋に入ると5人の子たちが待っていてくれた。特にK君はご機嫌だ。しきりに指文字を示してくれるが、私には理解出来なくて先生に伺ってみた。先生も「何の事かな。C(アルファベット)だね～」と不思議そう。

その内、K君が今日読む絵本の長新太を指さした。「あー長さんのCかあ～」と先生。

K君は長新太の絵本が大好きだと教えてくれた。おはなし(ついでにぺろりボルネオの昔ばなし)は先生の手話通訳で嬉しそうに聞き、絵本(ろくべえ まってろよ 灰谷健太郎作 長新太絵)は大ニコニコだ。

おはなし会が終わっても、出口まで付いてきて、まだ大ニコニコ。私は、大好きと嬉しいの手話動作を覚えた。

11月ボランティア活動予定

1日(月)	2日(火)	3日(水)	4日(木)	5日(金)	6日(土)
つるし雛 アートディスプレイ			ボランティア調 整会議 14:00 ピアノ田中さん		クリスマス飾 り
8日(月)	9日(火)	10日(水)	11日(木)	12日(金)	13日(土)
つるし雛販売		縫製 ぼぼんた			
15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)	20日(土)
	高野さんピアノ	縫製・手作り ぼぼんた ステッカーア ート ZOOM5 西			シブリングサ ポーター研修 会
22日(月)	23日(火)	24日(水)	25日(木)	26日(金)	27日(土)
手芸クラブ手作 り作品販売		ぼぼんた			
		月曜日～金曜日 外来活動 火・金 重心 月・水・金曜日 11:00～14:00 患者図書活動 ＊お話会「ぼぼんた」活動は、ZOOMでのお話会 14:00・14:30 毎週(火)高野さんのピアノ演奏・園芸活動 12月26日(日)正月飾りつけ			
29日(月)	30日(火)				
手芸クラブ手作 り作品販売	アートワークショッ プ(通路の絵) 重心～SHJ オンラインイベント				



写真
 左上ー通路ガラス絵
 右上ー屋上園芸活動
 左下ーアートフラワー活動
 右下ーきょうだいさんへの
 親子であそぶキット